



# 日本統計学会 会報 2016.1.30

No.  
166

発行—— 一般社団法人 日本統計学会  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F  
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局  
Tel & Fax : 03-3234-7738  
編集責任—中野 純司（理事長）／酒折 文武（庶務理事）  
森 裕一（広報理事）／久保田 貴文（広報委員）  
西塾 晴久（広報委員）  
振替口座—00110-3-743886  
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

## 目次

- |                                                                             |                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 1. 巻頭随筆：時系列解析とともに40年… 矢島美寛… 1                                               | 7. 日本経済学会連合からのお知らせ<br>…………… 小島宏・西郷 浩… 11         |
| 2. 2016年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）<br>…………… 星野伸明・桜井裕仁・林 篤裕… 3                    | 8. 2015年11月理事会・委員会報告…………… 11                     |
| 3. 第10回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）<br>…………… 中野純司・青木 敏・田中研太郎・<br>…………… 二宮嘉行・照井伸彦… 4 | 9. 会報 No.164掲載記事の一部脱落と<br>その補足について…………… 竹内恵行… 13 |
| 4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集<br>…………… 中野純司… 6                                      | 10. 博士論文の紹介…………… 19                              |
| 5. 第65回統計全国大会の報告…………… 岩崎 学… 8                                               | 11. 新刊紹介…………… 19                                 |
| 6. 2015年統計関連学会連合大会コンペティション<br>セッション受賞者のことば…………… 山口和範… 9                     | 12. 学会事務局から…………… 19                              |
|                                                                             | 13. 投稿のお願い…………… 20                               |

## 1. 巻頭随筆：時系列解析とともに40年

矢島 美寛（東京大学）

本稿の執筆依頼をいただいた同時期に、母校の同期生から「卒業40周年記念パーティ」の案内が届いた。大学院に進学し時系列解析を本格的に学び始めてから、早40年も経つのかとしばし感慨にふけてしまった。以下ではこの間折々に考えてきたこと・感じたことを書かせていただく。脈絡のない内容だが随筆ということなのでご容赦願いたい。

ざっくり区切ってしまうと、時系列解析は1970年代の終わりまでは自己回帰移動平均モデル（Autoregressive Moving Average model, ARMA model）に代表される定常線形短期記憶モデルに関する推測理論の時代、1980年以降はそれにすべて接頭辞「非」が付く「非定常」、「非線形」、「非短期記憶」モデルに関する推測理論の時代と言え

よう。

1980年を区切りにしたのは、切りの良い数字であること、自分が博士課程を修了して助手になった年であること、また Journal of Time Series Analysis が創刊され、その第1号に私のその後の研究の基礎となった Granger と Joyeux の論文が掲載された年という勝手な理由からである。

私が大学院生だった1970年代の終わりまでは ARMA モデルに代表されるパラメトリック・モデルに関する推測理論が主流であったと思う。しかし80年代に入ると、このモデルではフィットしない実データの存在も指摘されるようになり、また主要な理論的問題はほぼ解かれたと感じた。学問の良いところは一つの理論なりモデルなりが飽和的になると、新たなブレイクスルーが起きてき

らなる発展を遂げることだと思う。いくつか例を挙げてみると、非線形モデルでは Threshold AR model, ARCH model, Stochastic Volatility (SV) model, 非定常モデル関係では共和分モデル, 単位根テスト, 非短期記憶モデルとして長期記憶モデル, また連続時間拡散過程に関する推測理論などがある。21世紀に入ってからでも時空間統計解析, 最近では時系列データに対する高次元解析など新たな展開を見せている。最先端の研究を理解するのは年々歳々苦勞するが、関連したテーマで成果が出せればと思っている。

一方で人生も後半というか第4クオーターに入ると、昔から気になっていた問題に自分なりの解答を与えたいという気持ちも沸いてくる。紙数も限られているのでそのうちの1つ「非線形モデルに対する統一的な表現定理」について述べたい。弱定常過程に対する線型モデルを構築する際に基礎となる定理は Wold の表現定理であり、純非決定的定常過程 (purely nondeterministic stationary process) は無限次数の MA モデルで表現できる。ARMA モデルも長期記憶モデルもその正当性をこの定理に負っている。一方非線形モデルではどのような一般表現が可能になるのだろうか? Wold の定理の innovation は現時点の確率変数から1時点前までの確率変数が張る線形部分空間への射影、すなわち最良線形予測量を引いた誤差系列で構成される。これを一般化すれば2次モーメントが有限な定常過程は、非線形な予測量を含めた中での最良予測量すなわち条件付き期待値との差である martingale difference を用いて一般表現が可能になるのでは?

助手に成り立ての頃少し考えてみたが、良いアイデアが浮かばず、恩師の藤井光昭先生に御意見を伺った。先生の御回答は「矢島君、それは重要な問題であるが大変難しい。かつてM先生もチャレンジしたが満足のいく結果は得られなかったようである。この問題にはまると一生論文が書けない可能性があるから他のテーマを探した方が良い」であった。M先生ほどの碩学でも解けない問題を今の自分が解ける訳がないと断念した。顧み

て藤井先生の御忠告にしたがって良かったと思う。しかしもう論文の数にこだわる年齢ではないので来年あたりから再度チャレンジしたいと思っている。この問題に関連する論文などをご存じの方はご教示いただければ幸いである。

最後に「優れたモデルは実際データに対する深い洞察力和それに適合するモデルを構築できる緻密な数理的能力から生まれる」という当たり前のことを痛感する。1990年小川賞を当時統計学会会長であった赤池弘次先生からいただいた。そのとき先生は仰った。「矢島さん、理論はもういいですからもっと応用をやってください」。大変耳の痛いお言葉であった。お手本となる方々は少なからずいらっしゃるが、自分の研究分野では赤池先生、外国では Mandelbrot と上述の Granger である。一昨年 Mandelbrot の自伝が邦訳された。現在では「Hurst 効果」の名で知られる Hurst が調べたナイル川の水位データに触発され、van Ness とともに考案した確率モデル「フラクショナル・ブラウン運動」にまつわるエピソード、von Neumann, Wiener, Feller, Doob, Levy 達との交友録、反ユダヤ主義の迫害から逃れるため生地ワルシャワから一家でパリに移住した少年時代などドラマティックな生涯に興味を尽きず一気に読んでしまった。

一方 Granger のお陰で論文を書くことの出来た計量経済学者・統計学者は私を含め世界中に大勢いるであろう。共和分解析・因果性検定・長期記憶モデルなどまさに「アイデア創出者」(2003年ノーベル経済学賞受賞時、日本経済新聞における刈屋武昭先生の業績紹介より)である。彼の場合も数々の経済時系列データを分析することにより、スペクトル密度関数が原点で発散するようなデータが多々あること、個々の時系列データは短期記憶であっても集計したデータは長期記憶性を示す場合があることなどを見いだし、それが冒頭に述べた論文に結実したと想像する。

本年、小川賞をいただいたときの赤池先生と同じ年齢になった。先生がご存命であれば25年経っても同じことを言われてしまうだろう。冒頭と矛

盾するようだが自己回帰移動平均モデルが有用な  
実際データは今だに存在する。しかし人生は過去  
に regress してはいけない。未来に向かって少し  
でも progress しなくてはというのが現在の心境で  
ある。

Granger, C.W.J. (1966). The typical spectral shape  
of an economic variable. *Econometrica*, 34, 150-161.

Granger, C.W.J. (1980). Long memory relationship  
and the aggregation of dynamic models. *Journal of  
Econometrics*, 14, 227-238.

Granger, C.W.J. and Joyeux, R. (1980). An

introduction to long-range time series models and  
fractional differencing. *Journal of Time Series  
Analysis*, 1, 15-30.

Hurst, H.E. (1951). Long term storage capacity of  
reservoirs. *Transactions of the American Society of  
Civil Engineers*, 116, 770-779.

Mandelbrot, B.B. and van Ness, J. (1968). Fractional  
Brownian motions, fractional noise and applications.  
*SIAM Review*, 10 (4), 422-437.

Mandelbrot, B.B. (2012). *The Fractalist: Memoir of  
a scientific maverick* (邦訳: フラクタリスト: マン  
デルブロ自伝, 田沢恭子訳, 早川書房, 2013年)

## 2. 2016年度統計関連学会連合大会のお知らせ (第一報)

### 2016年度統計関連学会連合大会

運営委員会委員長 桜井裕仁 (大学入試センター)

実行委員会委員長 星野伸明 (金沢大学)

プログラム委員会委員長 林 篤裕 (九州大学)

#### 2.1. 2015年度統計関連学会連合大会について

2016年度統計関連学会連合大会は、応用統計学  
会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日  
本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の  
共催により、2016年9月4日(日)から7日  
(水)まで開催いたします。初日の9月4日は、  
石川県教育会館

(<http://kyouiku-kaikan.wix.com/ishikawa/>) にてチ  
ュートリアルセッションおよび市民講演会を、9  
月5日から7日までは、金沢大学角間キャンパス  
(<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/>)  
にて一般講演や企画セッション、コンペティショ  
ンセッション、ソフトウェアセッションなどを、  
それぞれ予定しています。

#### 2.2. 一般講演や大会参加について

一般講演や参加の事前申込、報告集原稿提出は  
今後開設するホームページ上で行います。一般講  
演申込の締め切りを5月下旬(予定)とし、それ  
以降に、報告集原稿提出および参加の事前申込の

締め切りを設定いたします。発表を計画されてい  
る方は予定に組み込んでいただければ幸いです。  
確定した期日や具体的な企画は、2016年3月上旬  
ごろに発行予定の第二報でお知らせいたします。

#### 2.3. 各種企画について

本大会においても従来の大会と同様に、チユー  
トリアルセッション、市民講演会、企画セッショ  
ン(4月上旬に締め切りを設定予定)、コンペテ  
ィションセッション、ソフトウェアセッションな  
どを予定しています。何かご意見やご提案をお持ち  
の方はプログラム委員会(kikaku2016@jfssa.  
jp)までお知らせください。各種企画の詳細は、  
第二報でお知らせいたします。

#### 2.4. 宿泊早期予約の注意喚起

2015年3月の北陸新幹線開業以来、金沢市内お  
よび近辺では宿泊施設の予約が取りにくい状況が  
続いています。また本大会の開催期間には、金沢  
大学角間キャンパスにて他学会の開催も予定され

ており、近隣の宿泊施設は満員になることも予想

されます。お早めに宿泊をご予約ください。

### 3. 第10回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）

中野純司（日本統計学会理事長）

青木 敏・田中研太郎・二宮嘉行（企画・行事担当理事）

照井伸彦（実行委員長）

第10回日本統計学会春季集会を東北大学にて開催いたします。会員の皆様による活発な議論を期待しております。企画セッションのプログラムは下記のようにになりました。午前は特別セッション「ビッグデータとデータサイエンス人材育成」および文部科学省・科学技術振興機構による事業説明会を行い、午後は「公的データの高度化と2次的利用の促進」「不完全データ解析における頑健推測とモデル選択」「混合効果モデル：理論と応用」「高頻度従属データの推測理論とその周辺」という4つのセッションを2セッションずつ並行して行います。ポスターセッションでは、ポスター発表を広く募集しております。優れたポスターに対して、「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします。セッション終了後、懇親会を計画しており、授賞式も合わせて行います。会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

#### 記

日 時：2016年3月5日（土） 9：00～17：30  
+懇親会

会 場：東北大学川内南キャンパス文科系総合講義棟（仙台市青葉区川内27-1）

参加費：無料（懇親会は有料）

#### プログラム

##### [午前の部]

会場：第1講義室

9：30～9：40 「開会式」

開会：中野純司（日本統計学会理事長）

挨拶：岩崎学（日本統計学会会長）

9：40～11：40 「特別セッション：ビッグデータとデータサイエンス人材育成」

オーガナイザー：渡辺美智子（慶応義塾大学）

座長：岩崎学（日本統計学会会長、成蹊大学）

講演1：Yuan Wei（人民大学副学長、大学院長）

「ビッグデータ時代に向けた中国の高等教育機関における統計教育改革（Statistics Education in China）」

講演2：樋口知之（統計数理研究所長）

「日本におけるビッグデータ時代の人材ビッグバン計画」

11：50～12：20 「文部科学省・科学技術推進機構 説明会」

司会：青木敏（神戸大学）

[1] JST 戦略的創造研究推進事業の数学関連領域について

さががけ「社会的課題の解決に向けた数学と諸分野の協働」研究領域

研究総括：國府寛司（京都大学）

[2] 文部科学省委託事業「数学・数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラム（数学協働プログラム）」について

実施責任者：伊藤聡（統計数理研究所）

12：30～14：00 「ポスターセッション（コアタイム）」（昼休み）

会場：東北大学川内南キャンパス文科系総合講義棟

##### [午後の部]

14：00～15：40 「企画セッション1：公的データの高度化と2次的利用の促進」

会場：第1講義室

オーガナイザー：渡辺美智子（慶応義塾大学）

座長：渡辺美智子（慶応義塾大学）

講演 1：佐藤彰洋（京都大学，科学技術振興機構  
さががけ）

「Web クローリングにより収集されたデータ  
と公的統計との関係：宿泊旅行統計メッシュデ  
ータの可能性」

講演 2：佐々木健一（内閣府大臣官房統計委員会  
担当室）

「公的統計におけるビッグ・データ活用可能  
性」

講演 3：角田敏（独立行政法人 統計センター）

「リモートアクセスを活用したオンサイトシス  
テムによる公的マイクロデータの利用について」

**14：00～15：40 「企画セッション 2：不完全  
データ解析における頑健推測とモデル選択」**

会場：第 2 講義室

オーガナイザー：服部聡（久留米大学）

座長：服部聡（久留米大学）

講演 1：服部聡（久留米大学）

「平均因果効果に対する層別二重頑健推定量」

講演 2：田栗正隆（横浜市立大学）

「構造平均モデルに基づく因果パラメータの推  
定とモデル選択」

講演 3：二宮嘉行（九州大学）

「因果推論モデルにおける周辺構造の選択のた  
めの情報量規準」

**15：40～15：50 休憩**

**15：50～17：30 「企画セッション 3：混合効  
果モデル：理論と応用」**

会場：第 1 講義室

オーガナイザー：二宮嘉行（九州大学）

座長：二宮嘉行（九州大学）

講演 1：久保川達也（東京大学）

「混合効果モデルを利用した小地域推定」

講演 2：若木宏文（広島大学）

「ランダム係数を持つ GMANOVA モデルの変  
数選択規準」

講演 3：藤原正和（塩野義製薬）

「臨床試験における混合効果モデル～欠測メカ  
ニズムと Shared Parameter Model の性能につい  
て～」

**15：50～17：30 「企画セッション 4：高頻度  
従属データの推測理論とその周辺」**

会場：第 2 講義室

オーガナイザー：増田弘毅（九州大学，JST  
CREST）

座長：増田弘毅（九州大学，JST CREST）

講演 1：荻原哲平（統計数理研究所）

「高頻度観測金融データに対する最尤型推定  
法」

講演 2：鎌谷研吾（大阪大学，JST CREST）

「マルコフ連鎖モンテカルロ法のエルゴード性  
と regular variation」

講演 3：増田弘毅（九州大学，JST CREST）

「レヴィ駆動型回帰モデル」

**18：00～20：00 「懇親会」**

会場：東北大学川内南キャンパス文系食堂

○ポスターセッションの申込み

メールにて poster-harul6@jss.gr.jp 宛でお申し  
込みください。詳細は集会ホームページ [http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/10/JSSspring2016\\_poster.html](http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/10/JSSspring2016_poster.html) をご覧ください。なお、  
申し込み締め切りは 2 月 12 日（金）です（厳守）。

○懇親会の申込み

メールにて konshin16@jss.gr.jp 宛でお申し込み  
ください。詳細は集会ホームページ [http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/10/JSSspring2016\\_party.html](http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/10/JSSspring2016_party.html) をご覧ください。会場準備の都合上、2 月  
25 日（木）までにお申し込みください。それ以降  
のお申し込みについては、空きがある場合のみ受  
け付けます。早めのお申し込みをよろしくお願い  
します。



## 4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

中野 純司（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

第21回 日本統計学会賞

第12回 日本統計学会統計活動賞

第12回 日本統計学会統計教育賞

第10回 日本統計学会研究業績賞

第9回 日本統計学会出版賞

いずれも推薦期間は2015年12月21日（月）から2016年4月1日（金）と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ（[http://www.jss.gr.jp/ja/society/prize\\_format.html](http://www.jss.gr.jp/ja/society/prize_format.html)）からダウンロード可能です。推薦書は各賞とも全て以下への郵送をお願いします。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい。不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

〔宛先・照会先〕

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL & FAX：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

### ○各賞共通

#### 〔受賞対象〕

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。

#### 〔推薦方法〕

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

#### 〔選考方法〕

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

#### 〔発表〕

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

### ○各賞の概要

#### 日本統計学会賞

#### 〔趣旨〕

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

#### 〔対象範囲〕

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

**理論：**統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

**実証・応用・計算：**この分野は以下のような内容を含む。

（1）人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。

（2）医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。

（3）統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

（4）応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

#### 〔推薦・選考方法〕

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長，前会長，理事長，会誌編集担当理事2名，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

### 日本統計学会統計活動賞

#### [趣旨]

研究や教育に限らず，広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

#### [対象範囲]

授賞の対象は，次に掲げる分野の活動である。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立，実務家へのサポート，統計に関する企画・推進等）。
- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア，データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人，グループ・団体等による統計の作成と継続，及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

#### [選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長，前会長，理事長，学会活動特別委員会委員長，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には，賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会統計教育賞

#### [趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し，わが国の統計教育

の発展並びに統計の普及，啓蒙に貢献することを目的とする。

#### [対象範囲]

授賞の対象となる者は，次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とする。

- (1) 統計教育に関する著書，論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア，テキスト，教材等の開発
- (4) 統計の普及，啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

#### [選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長，前会長，理事長，統計教育委員会委員長，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会研究業績賞

#### [趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた研究業績をあげた個人を顕彰し，わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

#### [対象範囲]

過去3年程度に日本統計学会誌あるいは内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文を審査対象とする。受賞件数は毎年2件以内とする。

#### [選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長，前会長，理事長，会誌編集担当理事2名，及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は，原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

受賞者には，賞状及び賞牌を授与する。

## 日本統計学会出版賞

### [趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書（研究、教育あるいは啓蒙）を出版した著者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

### [対象範囲]

審査の対象は、次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする。

（１）著者、編者あるいは訳者として、過去５年程度に刊行された統計学に関連する研究、教育あるいは啓蒙上の図書。

（２）過去５年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

受賞件数は毎年２件以内とする。

### [選考方法]

選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事２名、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

### [賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

## ５．第65回全国統計大会の報告

岩崎 学（日本統計学会会長）

統計の日（10月18日）の記念行事の一環として、第65回全国統計大会が11月19日（木）の午後、東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。この大会では、長年各種統計調査の実施に関して顕著な功績のあった統計功労者に対する総務大臣賞など各大臣表彰、「統計の日」標語の特選受賞者に対する表彰が行われた。それに加え、大内賞の授与、統計グラフ全国コンクール特選受賞者に対する表彰も挙行された。

大内賞は、戦後の我が国の統計の再建に尽力された大内兵衛博士の業績を記念して1953年度に設けられたものであり、2015年度は、多年統計実務に従事して我が国の統計の進歩に貢献した２名の方々に加え、日本統計学会の松田芳郎会員が、著書、論文等によって我が国の統計実務の進歩に直接貢献した人として表彰された。松田会員は、表彰式の最後に、各受賞者を代表しての謝辞を、戦後の統計制度の変遷などを交えて述べられた（写真は謝辞を述べられる松田会員）。



統計グラフ全国コンクールは、2015年度に第63回を数える歴史あるコンクールで、６部門に全国から26,548作品の応募があり、最終審査会（審査委員長：渡辺美智子慶應義塾大学大学院教授）が最終審査を行い、特選となった作品に対し、文部科学大臣奨励賞、総務大臣特別賞に加え、日本統計学会会長賞、日本品質管理学会賞がそれぞれ授与された。日本統計学会会長賞には、東京都晃華学園小学校５年の井川梨紗子さんの「鉛筆を使っていますか？」が選ばれ、大会当日に岩崎が賞状を授与した（写真は受賞後の記念撮影：井川梨紗子さんご家族、渡辺美智子審査委員長、椿広計日本品質管理学会会長、岩崎）。





表彰式の後に、第35回統計シンポジウムが「平成27年国勢調査の結果データの利活用」をテーマとして行われ、加藤久和明治大学教授の基調講演ののち、川崎茂会員を座長として、4人のパネリストによるパネル・ディスカッションが行われた。

統計調査の重要性を再認識させる盛大な大会であった。

## 6. 2015年統計関連学会連合大会コンペティションセッション受賞者のことば

2015年度統計関連学会連合大会 プログラム委員会委員長

コンペティションセッション担当 山口和範（立教大学）

前号で紹介のありました2015年統計関連学会連合大会でのコンペティションセッションの受賞者各氏からの受賞の言葉を以下に掲載いたします。

### 最優秀報告賞

松田 孟留（東京大 情報理工）

#### 「状態空間モデルを用いた神経電位の位相推定」

この度はコンペティション講演にて最優秀報告賞を頂き、大変光栄に存じます。

本報告では、状態空間モデルを用いて時系列を周期成分に分解する手法について発表させていただきました。提案手法によって時系列を（ランダム周波数変調ありの）周期成分に自然に分解できるため、時系列の背後に潜む振動現象やリズムを捉えることができます。特に、各成分の位相に注目することで、色々と面白い知見が得られることを期待しております。当初は神経データの位相推定を念頭に置いた研究でしたが、他にもさまざまな応用があり得ると考えております。何か面白い応用先がございましたら、ご指導いただけると幸いです。

今回の受賞を励みに、本手法をより現実のデータへ適用しやすい形へ発展させてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

### 優秀報告賞

大前 勝弘（総合研究大学院大）

#### 「異質性が内在する2標本検定問題におけるロバストな統計量」

栄誉ある賞を頂戴し、たいへん光栄に存じます。審査委員の皆様ならびに、今大会の運営関係者の皆様に、また、本報告を含む自身の研究において、平素よりご指導くださっている江口真透先生と小森理先生に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本報告では、古来より扱われてきた2標本検定に、近年積極的に研究対象とされている高次元データ、今後より注目されると予感している生物学的異質性の3点を含む題材で、ロバストな変数ランキングをターゲットにしました。これらを取り巻くデータ解析の方法論は日々提案され複雑化していく一方で、それらを以ってしても十分良い結果が得られているとはいえないと思っております。それに逆行して、古典的なアイデアに少し工夫を凝らすだけでも興味深い結果が出せることを示唆できたように思います。

今回の受賞を励みに、よりインパクトのある研究成果を出し、統計学の発展に貢献できるように日々精進して参ります。

田辺 竜ノ介 (大阪大 基礎工)

「spike and slab 事前分布を用いた罰則付き回帰」

拙発表『spike and slab 事前分布を用いた罰則付き回帰』が統計連合大会コンペティション講演にて優秀報告賞を賜りましたことを大変嬉しく存じます。審査委員先生方また運営関係者各位に深く御礼申し上げます。

ベイズ統計では何に主題を置くかで見える光景が大きく異なるように思っています。目的に合わせて事前分布を設定することが常ですが、私はその逆にある事前分布で何が出来るかを考えてきました。spike and slab 事前分布は事後確率やベイズファクターなどモデル選択の場面では最も用いられる事前分布です。しかし、パラメータ推定でのフレームワークでの導入は稀です。モデル選択で使用する手法を変数推定に用いるという理屈は、頻度論におけるスパース推定と同じものを感じました。拙発表での研究はその感じた共通点をどれだけ理論だてて式の上で意味を繋げられるかを目的としました。

最後に怠惰な私へ発破をかけ続けて下さった先生方へ厚く御礼申し上げます。もう授賞式をすっばかさないう心がかかります。

茂木 快治 (早稲田大 政治経済学術院)

「Regression-Based Mixed Frequency Granger Causality Tests」

この度は2015年度統計関連学会連合大会コンペティション・セッションにおきまして「優秀報告賞」という名誉ある賞を頂き、大変光栄に思うとともに恐縮しております。本大会を運営して下さい先生方と審査員の方々に心から感謝申し上げます。

今回発表させて頂きました“Regression-Based Mixed Frequency Granger Causality Tests”は、観測頻度の相異なる時系列間のグランジャー因果性の

新たな検定方法を提案した論文です。この検定は小標本において高い検出力を持つだけでなく、高い実用性も兼ね備えており、様々な仮説検定への応用が可能です。

本論文の共著者のエリック・ガイセルズ先生とジョナサン・ヒル先生（ともにノースカロライナ大学チャペルヒル校）に感謝致します。今回の受賞を励みとして、今後も観測頻度の相異なる多変量時系列に関する理論的・実証的研究を深めたいと考えております。

森川 耕輔 (大阪大 基礎工)

「Semiparametric Inference under Nonignorable Nonresponse」

このたびは、統計関連学会連合大会コンペティション講演において優秀報告賞を賜り、大変光栄に存じます。コンペティション講演の企画・運営に携われた先生方に厚く御礼申し上げます。また平素より熱心にご指導いただいている狩野裕教授、留学時お世話になり本研究に関し何度も議論してくださった Jae Kwang Kim 教授、発表資料や発表練習にご尽力いただいた狩野研究室のみなさま、諸先輩方に心より感謝申し上げます。

本報告では、目的変数が無視できない欠測を含むデータに対し Doubly robust 性を有する推定量を提案致しました。無視できない欠測を含む場合、通常、目的変数に関する平均や中央値といった単純な推定量でさえ、ある2つのモデルを両方とも正しく特定できなければバイアスが生じます。提案手法でも2つのモデルの特定を要しますが、そのどちらか一方を正しく特定できていれば一致性を有するため、応用の場面で扱いやすい推定量となっています。

今回の受賞を励みに、より一層鋭意努力いたす所存ですので、ご指導のほどよろしく願いいたします。

## 7. 日本経済学会連合からのお知らせ

小島 宏・西郷 浩（日本経済学会連合評議員）

日本統計学会が加盟する日本経済学会連合では、例年通り平成28年度も加盟学会に対して国際会議派遣補助を支給します。応募者多数の場合、日本経済学会連合理事会が対象者を選考します。また、1回の募集につき1学会1件の応募が原則ですので、希望者が複数の場合には日本統計学会理事会で選考いたします。募集方法の詳細は日本統計学会事務局にお問い合わせください。

日本経済学会連合 国際会議派遣補助

（a）目的：

加盟学会の会員が、平成28年4月1日から平成29年3月31日までに海外で開催される国際会議に出席する場合、往復渡航費・宿泊のための補助金を支給する。

（b）補助額：

原則として開催地により7段階（10万円から40万円まで5万円刻み）とする。

（c）募集時期：

第1回：平成28年2月10日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

第2回：平成28年5月末日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

注）第2回は、第1回選考の結果、余裕定員があるときにのみ応募する。

（d）応募の条件：

派遣先の国際会議は申請学会が公認したものであること。申請学会からの派遣者が同会議での報告者または討論者であること。被派遣者は、過去5年間、日本学術会議から派遣費を受けていないこと、また、当年度において、日本学術会議をはじめ他の機関から補助を受けていないこと。申請は、1回の募集につき1学会1件に限る。

（e）備考：

申請には、当該国際会議に関するインフォメーション（レター、プログラムなど）を添付すること。また、補助を受けた被派遣者は、帰国後1ヶ月以内に「国際会議派遣報告書」ほかを経済学会連合事務局に提出すること。この補助を受けて国際会議に出席した場合には、経済学会連合評議員会（10月ごろ）にて30分程度の報告を依頼することがある。

## 8. 2015年11月理事会・委員会報告

理事会（2015年11月22日）報告

日時：2015年11月22日（日）12：00～13：00

場所：統計数理研究所八重洲サテライトオフィス  
会議室

理事の総数12名 出席理事の数10名

監事の総数3名 出席監事の数1名

出席者

理事：岩崎学会長、中野純司理事長、酒折文武（庶務）、間野修平（庶務）、倉田博史（会誌編集欧文）、笛田薫（会誌編集和文）、森裕一（広報）、青木敏（大会・企画・行事）、塚原英敦（国際）、照井伸彦（渉外）（以上、10名、カッコ内は役割分担）

監事：田中勝人（以上、1名）

<第1議案> 一般社団法人日本統計学会の定款細則の変更

中野理事長より、資料に基づき、一般社団法人日本統計学会定款細則にある「(財)統計情報研究会開発センター」を「公益財団法人 統計情報研究開発センター」と変更することの提案があり、審議の結果、社員総会に諮ることとした。

#### ＜第2議案＞ 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

中野理事長より、資料に基づき、学会賞各賞の候補者推薦の開始について提案があり、推薦受付期間を2015年12月21日(月)～2016年4月1日(金)とすることを承認し、会長が推薦する選考委員は社員総会(3月4日)において承認を得ることとした。

#### ＜第3議案＞ 会員の入退会(回覧)

中野理事長より、回覧資料に基づき入退会者が紹介され、承認された。

#### ＜第4議案＞ 社員総会の招集の件

1. 日時 2016年3月4日(金曜日)午後6時30分から
2. 場所 東北大学川内南キャンパス文科系総合講義棟 第3小講義室
3. 会議の目的事項  
(1) 社員総会における通常の審議

#### 委員会(2015年11月22日)報告

日時: 2015年11月22日(日) 13:00～15:30

場所: 統計数理研究所八重洲サテライトオフィス 会議室

出席: 理事10名, 監事1名, 委員1名 計12名  
岩崎学会長, 中野純司理事長, 酒折文武, 間野修平, 倉田博史, 笛田薫, 森裕一, 青木敏, 塚原英敦, 照井学, 田中勝人(監事), 田中研太郎(委員)

#### ＜報告事項＞

#### 1. 欧文誌編集委員会

倉田委員長より、第45巻第2号(2016年3月発行予定)の編集作業の進捗状況が報告された。

#### 2. 和文誌編集委員会

笛田委員長より、第45巻第2号(2016年3月発行予定)の編集作業の進捗状況が報告された。

#### 3. 大会委員会

青木委員長より、次の会報に2016年度統計関連学会連合大会に関する第1報を出すことが報告された。

#### 4. 企画・行事委員会

青木委員長より、資料に基づき、第10回日本統計学会春季集会に関する報告があった。

#### 5. 庶務委員会

酒折委員長より、理事会・社員総会の名称から「第X回」、「臨時」、「定時」を除くことにしたことが報告された。

#### 6. 広報委員会

森委員長より、会報166号の原稿を募集中との報告があった。

#### 7. 国際関係委員会

塚原委員長より、2016年12月19日～22日に開催される International Chinese Statistical Association の大会後援について報告があった。

#### 8. その他

照井委員長より、資料に基づき、H28年度科研費の申請について報告があった。

#### ＜審議事項＞

#### 1. 欧文誌編集委員会

審議事項なし。

#### 2. 和文誌編集委員会

審議事項なし.

### 3. 大会委員会

審議事項なし.

### 4. 企画・行事委員会

審議事項なし.

### 5. 庶務委員会

審議事項なし.

### 6. 広報委員会

森委員長より、Web のリニューアルと CMS 化について説明があり、審議の結果、株式会社チロロネットに発注することとした.

### 7. 出版企画委員会

審議事項なし.

### 8. 国際関係委員会

審議事項なし.

### 9. その他

なし.

## 9. 会報 No.164掲載記事の一部脱落とその補足について

前広報担当理事 竹内 恵行（大阪大学）

会報 No.164に掲載しました「12. 定時社員総会報告」におきまして、あるべき筈の2014年度事業報告、2014年度決算書、監査報告書の3点が脱落し、掲載漏れになっておりました。調査しましたところ、担当理事間の連絡・確認が不十分であ

ったことに起因したことが判明しました。会報編集責任者として、このような不行き届きがありましたことを、会員の皆様にお詫び申し上げますと共に、以下に掲載させていただきます。



## 2014 年度事業報告

(2014. 4. 1～2015. 3. 31)

### 0. 学会の動向

日本統計学会が一般社団法人として4年目を迎えた。学会事業の運営に関係する情報が増え、蓄積されつつあり、国友直人会長、鎌倉稔成理事長を含む12名の理事と2名の監事、および各種委員会における委員の運営により、特段の問題もなく1年を終えることができた。統計検定事業の継続、MOOC 講座の体系化、各講座の内容の企画など、統計学の普及に大きく貢献した年度であった。

2015年1月31日現在の会員の数は1,526である(名誉会員17、正会員1,430、学生会員55、賛助会員17、団体会員7)。

### 1. 出版編集事業

#### 1. 欧文誌の発行

欧文誌2号[Vol. 44 No. 1 (6月), No. 2(12月)]を発行した。

内訳は原著論文10編、全218ページであった。

科研費・国際情報発信強化に不採択であった。

#### 2. 和文誌の発行

和文誌2号[第44巻シリーズJ第1号(9月), 第2号(3月)]を発行した。第1号で「経済分析と構造変化」, 「共変量シフトと密度比推定」, 「マクロ経済時系列分析におけるこれまでの発展と今後の展望」第2号で「多重比較の理論と応用・最近の展開」, 「行列分解による多変量データ解析」の特集を組んだ。

内訳は原著論文1編, 特集16編, 受賞者特別寄稿論文3編, 書評7編, その他を合わせ全508ページであった。

DOI 取得のための手続が完了した。

#### 3. JSS Research Series in Statistics シリーズ(英文)の出版

第1冊目として Kohei Ohtsu, Hui Peng, Genshiro Kitagawa 著 Time Series Modeling for Analysis and Control: Advanced Autopilot and Monitoring Systems の電子版がリリースされた。出版企画委員会 JSS-Springer 小委員会では約10冊程度の書籍の出版を計画中である。

#### 4. 会報の発行

No. 159 (4月), No. 160 (7月), No. 161 (10月), No. 162 (1月) を発行した。

### II. 内外学界交流事業

#### 1. 日本統計学会第81回大会の開催

2014年9月13日(土)～9月16日(火), 東京大学において, 統計関連学会連合大会の一環として開催した。企画セッションとして, 日本統計学会会長講演, 日本統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式, 会員集会)を企画した。

#### 2. 春季集会の開催

2015年3月8日(日)に第9回春季集会を明治大学において開催した。参加者は190名であった。

#### 3. 研究部会の活動

2015年度より活動を開始する部会を募集した(2014年12月5日～2015年2月4日)が, 応募はなかった。

#### 4. 研究分科会の活動

以下の分科会が活動を終了した。

「ベイズ分析研究分科会」(繁榊算男主査: 2010年11月発足, 2014年10月終了)

現在, 以下の分科会が活動中である。

「スポーツ統計分科会」(田村義保主査: 2009年6月発足, 2017年5月終了予定)

「金融の計量リスク管理分科会」(塚原英敦主査: 2009年9月発足, 2017年8月終了予定)

「統計教育分科会」(藤井良宣主査: 2010年12月発足, 2018年11月終了予定)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(福重元嗣主査: 2010年12月発足, 2018年11月終了予定)。

#### 5. 臨時委員会として, MOOC 委員会を設置した

#### 6. 統計検定の実施

2014年6月22日(日)と11月30日(日)に日本統計学会が主体となり, 一般財団法人統計質保証推進協会を実施団体として第4回目と5回目の統計検定を実施した。第4回目の2級, 3級, 4級の受験申込者の合計は2,918名, 第4回目の1級, 2級, 3級, 4級, 統計調査士, 専門統計調査士の受験申込者数の合計は5,050名(2011年の第1回実施時は1,222名, 2012年の第2回実施時は2,692名, 2013年の第3回実施は4,895名)であった。また, 2014年5月23日(金), 25日(日)には, RSS/JSS 試験を統計検定の一環として行った。

#### 7. 大学間連携共同教育推進事業へのステークホルダーとしての参加の継続

平成24年度採択の大学間連携共同教育推進事業(文部科学省)「データに基づく課題解決型人材育成に資する統計教育質保証」にステークホルダーとして参加した。事業期間は2012年9月27日より2016年度末までである。

## 事業報告附属明細書

### Ⅲ. 会員関係事業

#### 1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため、以下の賞を授与した。

- 第19回日本統計学会賞：江口 真透，杉山 高一
- 第10回日本統計学会統計活動賞：該当なし
- 第10回日本統計学会統計教育賞：橋本 三嗣，前川 恒久
- 第8回日本統計学会研究業績賞：笠原 博幸・下津 克己（共同受賞），増田 弘毅
- 第7回日本統計学会出版賞：青木 敏・竹村 彰通・原 尚幸（共同受賞）
- 第28回日本統計学会小川研究奨励賞：鎌谷 研吾

#### 2. 各種委員会の活動

社員総会（2014年6月21日，2015年3月7日）を開催した。

理事会（2014年5月10日，7月26日，11月22日，2015年1月31日）を開催した。

被選代議員会を開催した（2015年3月7日）

役員協議会（2013年9月13日）を開催した。

その他の各種委員会を適宜，開催した。

#### 3. 広報活動の充実

メールアドレスの使用やホームページの充実により，各種情報発信を促進した。

#### 4. 会員名簿の発行・web会員名簿の更新

会員名簿を発行し，web会員名簿を更新した（2013年12月）。

### Ⅳ. その他

なし。

附属明細書に記述すべき事項はない。

一般社団法人 日本統計学会

2014年度 決算書(連結ベース)

2014年4月1日～2015年3月31日

(単位 円)

正味財産増減計算書

|                      |                      | 2014年度予算   | 2014年度決算    | 備考                |
|----------------------|----------------------|------------|-------------|-------------------|
| <b>I 一般正味財産増減の部</b>  |                      |            |             |                   |
| <b>1. 経常増減の部</b>     |                      |            |             |                   |
| <b>(1) 経常収益</b>      |                      |            |             |                   |
| 会費収入                 |                      | 13,590,000 | 14,063,091  |                   |
|                      | 名譽会員・正会員             | 10,400,000 | 11,357,000  |                   |
|                      | 学生会員                 | 9,600,000  | 10,507,000  |                   |
|                      | 遡及請求分                | 200,000    | 230,000     |                   |
| 賛助人費                 |                      | 600,000    | 620,000     |                   |
| 団体会員費                |                      | 1,000,000  | 980,000     |                   |
| 科学研究費補助金             |                      | 280,000    | 280,000     |                   |
| 雑収入                  |                      | 500,000    | 0           |                   |
|                      |                      | 1,410,000  | 1,446,091   |                   |
|                      | 会誌購読料                | 700,000    | 674,000     |                   |
|                      | 利子収入                 | 10,000     | 17,372      |                   |
|                      | 広告収入                 | 700,000    | 610,000     |                   |
|                      | その他                  | 0          | 144,719     | 著作権許諾料他           |
| <b>(2) 経常費用</b>      |                      |            |             |                   |
| 印刷費                  |                      | 12,994,000 | 15,149,992  |                   |
|                      | 会誌(44巻1,2,44-J1,J2号) | 7,650,000  | 8,713,976   | *                 |
|                      | 会報(159-162号)         | 6,300,000  | 7,568,154   | *                 |
|                      | 名簿印刷費                | 750,000    | 781,240     |                   |
|                      | その他印刷                | 0          | 0           |                   |
| 大会開催費                |                      | 600,000    | 364,582     | 会誌・会報の封筒作成、大会冊子等  |
|                      |                      | 1,250,000  | 995,835     |                   |
|                      | 春季集会開催費              | 600,000    | 382,888     |                   |
|                      | 各賞運営経費               | 500,000    | 399,033     |                   |
|                      | 出版費                  | 50,000     | 35,052      | 75周年記念基金充当        |
|                      | 小川賞費                 | 0          | 108,862     | *小川賞基金充当          |
|                      | その他大会開催費             | 100,000    | 70,000      | 連合大会賛助会員招待分       |
| 研究部会費                |                      | 300,000    | 0           |                   |
| 研究分科会費               |                      | 100,000    | 160,000     | *うち80,000は昨年度分    |
| 学会運営会合費              |                      | 230,000    | 183,483     |                   |
|                      | 評議員会(社員総会)           | 70,000     | 58,473      |                   |
|                      | 特別委員会                | 20,000     | 68,088      | *                 |
|                      | 統計教育委員会              | 20,000     | 2,000       |                   |
|                      | 会誌編集委員会              | 20,000     | 0           |                   |
|                      | 理事会                  | 100,000    | 54,922      |                   |
| 事務費                  |                      | 280,000    | 280,339     | *                 |
|                      | 一般事務人件費              | 20,000     | 0           |                   |
|                      | 校正編集事務人件費            | 100,000    | 138,000     |                   |
|                      | 発送事務人件費              | 90,000     | 86,400      |                   |
|                      | 事務用品                 | 40,000     | 20,339      |                   |
|                      | その他                  | 30,000     | 35,600      | *事務員の交通費・収入印紙     |
| 学会事務業務委託費            |                      | 2,592,000  | 2,592,000   |                   |
| 通信・郵送費               |                      | 1,450,000  | 1,888,528   | *                 |
|                      | 会誌送料                 | 600,000    | 768,608     | *                 |
|                      | 会報送料                 | 450,000    | 453,347     | *                 |
|                      | 名簿送料                 | 0          | 0           |                   |
|                      | その他通信・郵送料            | 400,000    | 666,573     |                   |
| 役員旅費補助               |                      | 120,000    | 66,540      |                   |
| 各種分担金                |                      | 150,000    | 182,551     | *                 |
|                      | 日本経済学会連合             | 35,000     | 35,000      |                   |
|                      | 国際統計協会ISI            | 25,000     | 28,948      | *                 |
|                      | 横幹連合                 | 50,000     | 50,000      |                   |
|                      | 統計関連学会連合             | 40,000     | 40,000      |                   |
|                      | その他                  | 0          | 28,603      | *日本地球惑星科学連合シンポジウム |
| ネットワーク維持費            |                      | 42,000     | 16,740      | ドメイン使用料, 学会サーバー委託 |
| 国際交流促進費              |                      | 250,000    | 0           |                   |
| 名簿作成積立金              |                      | 0          | 0           |                   |
| 統計検定関係費              |                      | 0          | 0           |                   |
| 租税公課                 |                      | 0          | 70,000      | * 都民税             |
| 世界統計会議(ISI)派遣補助      |                      | 0          | 0           |                   |
|                      |                      | 0          |             |                   |
| 当期経常増減額              |                      | 596,000    | ▲ 1,086,901 |                   |
| (うち特定資産以外)           |                      | 1,146,000  | ▲ 536,003   |                   |
| (うち特定資産)             |                      | ▲ 550,000  | ▲ 550,898   |                   |
| <b>2. 経常外増減の部</b>    |                      |            |             |                   |
| <b>(1) 経常外収益</b>     |                      |            |             |                   |
| 75周年記念事業委員会資金追加譲受益   |                      | 0          | 807,676     |                   |
| 当期経常外増減額             |                      | 0          | 807,676     |                   |
| 一般正味財産期首残高           |                      | 89,013,152 | 89,013,152  |                   |
| 一般正味財産期末残高           |                      | 89,609,152 | 88,733,927  |                   |
| <b>II 指定正味財産増減の部</b> |                      |            |             |                   |
| 当期指定正味財産増減額          |                      | 0          | 0           |                   |
| 指定正味財産期首残高           |                      | 0          | 0           |                   |
| 指定正味財産期末残高           |                      | 0          | 0           |                   |
| <b>III 正味財産期末残高</b>  |                      |            |             |                   |
|                      |                      | 89,609,152 | 88,733,927  |                   |
| <b>IV 投資活動収支の部</b>   |                      |            |             |                   |
| 投資活動収入               |                      | 0          | 500,000     |                   |
| 投資活動支出               |                      | 0          | 500,000     | 統計質保証協会宛貸付金回収     |
| V 予備費                |                      | 3,000,000  | 0           |                   |

(注) 費用項目中予算を超過する項目(\*印)があるが全て予備費の範囲内のもの

2014年度決算書

(2015年3月31日現在)

貸借対照表

(単位 円)

| 借方            |            |            | 貸方                |            |            |
|---------------|------------|------------|-------------------|------------|------------|
| 科目            | 期首         | 期末         | 科目                | 期首         | 期末         |
| I. 資産の部       |            |            | II. 負債の部          |            |            |
| 現預金           | 11,608,275 | 11,548,272 | 未払金               | 0          | 0          |
|               |            |            | <b>負債合計</b>       | 0          |            |
| 貸付金           | 3,000,000  | 2,500,000  | III. 正味財産の部       |            |            |
| <b>流動資産合計</b> | 14,608,275 | 14,048,272 | 指定正味財産            | 0          | 0          |
|               |            |            | 一般正味財産            | 89,013,152 | 88,733,927 |
| 学会活動積立金       | 3,500,466  | 3,501,169  |                   |            |            |
| 60周年記念基金      | 3,160,073  | 2,766,195  | (うち基本財産への充当額)     | 0          | 0          |
| 75周年記念基金      | 922,667    | 1,693,049  |                   |            |            |
| ISI基金         | 51,885,482 | 51,895,855 |                   |            |            |
| ICP基金         | 11,270,474 | 11,272,726 |                   |            |            |
| 小川基金会         | 3,665,715  | 3,556,661  | (うち特定財産への充当額)     | 74,404,877 | 74,685,655 |
| 特定資産合計        | 74,404,877 | 74,685,655 |                   |            |            |
| <b>固定資産合計</b> | 74,404,877 | 74,685,655 | <b>正味財産合計</b>     | 89,013,152 | 88,733,927 |
| <b>資産合計</b>   | 89,013,152 | 88,733,927 | <b>負債及び正味財産合計</b> | 89,013,152 | 88,733,927 |

(注) 貸付金は一般財団法人統計質保証推進協会宛 2,500,000円。

ISI基金はISI東京大会記念事業基金。

ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金。

特定資産の増減及びその残高

特定資産の増減及びその残高は次のとおりである

(単位: 円)

| 科 目              | 前期末残高      | 当期増加額   | 当期減少額   | 当期末残高      | 摘 要                          |
|------------------|------------|---------|---------|------------|------------------------------|
| 会活動積立            | 3,500,466  | 703     | 0       | 3,501,169  | 増加額は預金利息                     |
| 60周年記念基金<br>(注1) | 3,160,073  | 562     | 394,440 | 2,766,195  | 増加額は預金利息562<br>減少額は各賞等目的取崩   |
| 75周年記念基金<br>(注2) | 922,667    | 807,765 | 37,383  | 1,693,049  | 増加額のうち譲受益は<br>807,676、預金利息89 |
| ISI基金<br>(注3)    | 51,885,482 | 10,373  | 0       | 51,895,855 | 増加額は預金利息                     |
| ICP基金<br>(注4)    | 11,270,474 | 2,252   | 0       | 11,272,726 | 増加額は預金利息                     |
| 小川基金会<br>(注5)    | 3,665,715  | 711     | 109,765 | 3,556,661  | 増加額は預金利息                     |
| 合 計              | 74,404,877 | 822,366 | 541,588 | 74,685,655 |                              |

(注1) 60周年記念基金の資金使途は学会賞及び学会活動他

(注2) 75周年記念基金の資金使途は出版賞その他

(注3) ISI基金はISI東京大会記念事業基金

(注4) ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金

(注5) 小川賞基金の資金使途は小川賞

## 監 査 報 告 書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の2014年4月1日から2015年3月31日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いたします。

### 監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類（正味財産増減計算書、貸借対照表）について検討いたしました。

### 監査の結果

#### (1) 事業報告等の監査結果

- 一、事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

#### (2) 計算書類の監査結果

計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2015年5月1日

一般社団法人 日本統計学会

監事

村 章 通



監事

矢 島 美 寛





## 10. 博士論文の紹介

最近の博士論文を原稿到着順に紹介いたします。  
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に記載いたします。(敬称略)

● (1) 橋本真太郎 (2) 博士 (理学) (3) 筑波大学 (4) Some contributions to mathematical statistics (5) 小池健一 (6) 2015年11月

## 11. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

・廣瀬英雄・藤野友和, 『確率と統計 Web アシスト演習付』, 培風館, 2015年10月, 2,200円+税  
**内容紹介:** オンラインアダプティブ IRT 演習「愛あるって」付。

・岩崎 学, 『統計的因果推論』, 朝倉書店, 2015年11月, 3,600円+税  
**内容紹介:** 国友直人・竹村彰通・岩崎 学の共同編集による「統計解析スタンダード」シリーズの第7冊目。以下続刊。

・日本統計学会 編 『改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定2級対応 統計学基礎』, 東京図書,

2015年12月, 2,200円+税

**内容紹介:** 2級の出題に即した内容を提示するのはもちろんのこと, 推測統計を確率変数・確率分布から順次学べるようにし, 各章の関係を明確にした。また, 解説を充実させ, 統計解析システム R を使った分析事例を多く示した。

・Takashi Sozu, Tomoyuki Sugimoto, Toshimitsu Hamasaki, Scott R. Evans, “Sample Size Determination in Clinical Trials with Multiple Endpoints”, Springer, 2015年 9 月, \$69.99, Softcover, ISBN 978-3-319-22004-8

**内容紹介:** 本書は, 主要評価変数が複数ある臨床試験における標本サイズ設計法について, 著者らの研究成果とその周辺を整理・解説している。

## 12. 学会事務局から

### 学会費払込のお願い

2015年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上, こちらもご活用下さい。

### 学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに, 氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内  
日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

### 入会承認

池川真里亜, 井手口範男, 大林正之, 小野裕亮,  
小山義徳, 門田陽宏, 川島孝行, 小部敬純, 新里  
隆, 高木義治, 高松伸一, 中沢孝則, 西浦博, 西  
森千博, 萩原章嘉, 長谷川翔平, 樋木伸吾, 増田  
宗人, 三角俊裕, 峰村英二, 森裕一, 山上敬, 米  
澤弘毅, Ali Falahati, Lie Michael, (株)日本科学技  
術研修所 (敬称略)

### 退会承認

阿藤誠, 伊藤佳幹, 岩崎俊夫, 大津紘子, 小山義  
徳, 金大柱, 工藤稔, 柴田義貞, 清水由紀子, 田  
川正二郎, 西山昇, 古谷直大, (株)サイカ (敬称略)

### 現在の会員数 (2016年 1 月 6 日)

|      |        |
|------|--------|
| 名誉会員 | 17名    |
| 正会員  | 1,437名 |
| 学生会員 | 63名    |
| 総計   | 1,517名 |
| 賛助会員 | 19法人   |
| 団体会員 | 7団体    |

## 13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの, 会員に有益である  
と考えられるものなどについて原稿をお送りくだ  
さい。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人など  
をお知らせください。

- 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4)  
論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年  
月 をお知らせください。

- 求人案内 (教員公募など)

- 研究集会案内

- 新刊紹介

著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月を  
お知らせください。紹介文を付ける場合は100  
字程度までとし, 主観的な表現は避けてくださ  
い。

- 会員活動紹介 (叙勲・受章, 各種受賞等)

できるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文  
書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致し  
ます。

### 原稿送付先 :

〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町1-1  
岡山理科大学 総合情報学部 社会情報学科  
森 裕一 宛

E-mail : koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :  
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :  
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL :  
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :  
[meibo@jss.gr.jp](mailto:meibo@jss.gr.jp)
- 広報連絡用 e-mail アドレス :  
[koho@jss.gr.jp](mailto:koho@jss.gr.jp)
- その他連絡用 e-mail アドレス :  
[shom@jss.gr.jp](mailto:shom@jss.gr.jp)

